

<単元の指導計画> (総時数17時間)

小 単 元 内 容	配 当 時 間	育成すべき内容					追 究 の 手 だ て	期 待 さ れ る 児 童 の 姿
		A	B	C	K	L		
プレテストと「野球用ボール」の調査活動による学習意欲の動機づけ	2	◎	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ○野球のボールはどのようにできているかについて話し合わせる。 ・大きさ ・重さ ・基準など 	○本を参考に主体的に情報を収集できる。
1. 学習課題の把握 (ボール作りの名人は?)	2						<ul style="list-style-type: none"> ○どちらが規定内の重さのボールを作れる名人かという具体的な課題を提示する。 ○ボールの基準の重さを考えさせる。 	○既習事項をもとに解決法を考えることができる。
(1) 個人での思考		○		◎				
(2) グループでの解決		○	○	◎			<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の考えを大切に、それをもとにグループで話し合いをさせる。 	○グループの話し合いに積極的に参加することができる。
(3) 代表値としての平均	1			◎	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○前学年までの平均の意味とのちがいをとらえさせる。 	○パソコンでの処理結果をヒントとして活用することができる。
(4) 以上、未満、以下の用語	2	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ○以上、未満、以下について、区間のとり方と関連づけて理解させる。 	○平均が同じでも、資料の散らばり方は違っていることに気づくことができる。
(5) 度数分布表・柱状グラフ	4	○	○	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○個別に学習を進めさせ、度数分布表や柱状グラフのかき方を理解させる。 	○用語の意味を知り、適切に使用できる。
2. 自分で集めた資料の傾向や特徴を考察	5						<ul style="list-style-type: none"> ○目的意識を持った資料の収集・選択をさせる。 ○授業でのパソコンの効果的な位置づけをする。 ・最大、最小、平均 ・度数分布表、柱状グラフ 	○パソコンでの処理結果をヒントとして活用できる
(1) 資料収集		◎	◎					○調べる目的をよく理解したうえで、適切に資料の収集・選択ができる。
(2) 度数分布表・柱状グラフ				◎	○	○		
(3) 散らばりの様子(本時)				○	◎	◎		
3. 一部の資料から全体の傾向を推定	1	○	◎	◎		○	<ul style="list-style-type: none"> ○平均や散らばりなどをもとにした資料の考察をさせる。 	○身近なところから、目的意識を持った資料の選択ができる。

<本時の授業の流れ> ※本時は90分授業

ね ら い	学 習 活 動 の 流 れ	時間 (分)	留 意 点	適 性 に 関 す る 手 だ て	
				観 点	手 だ て
○課題解決への意欲をもつことができる。		5	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の確認と持参した資料の確認 ○学習の進め方の理解 	持	集
○自分で集めた資料を度数分布表や柱状グラフに表すことができる。		15	<ul style="list-style-type: none"> ○問題意識の持続が困難な児童や集中できない児童には個別や小グループでの適切な援助指導をする。 ○度数分布表や柱状グラフの作成の仕方や区間のとりかたにつまずきが見られる児童には、随時、援助指導をする。 	中	性
○調べたことを自分なりの考えでまとめ、発表できる。		5	<p><パソコンソフト> バ①…データを入力し、度数分布表や柱状グラフに表す。 バ②…データを入力し、最大値や最小値、平均を求める。 バ③…進度の早い児童は、市販のドリル用ソフトを使用し、度数分布表や柱状グラフについてのまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次時に全体のまとめをすることを知らせる。 	多	面 性
					<ul style="list-style-type: none"> ○集中力に欠ける児童へのはげまし ○区間のとりかたが困難な児童への援助指導 ○さまざまな資料の中から、適切な情報を選択できない児童への配慮 ○考え方やもの見方がかたよがりな児童への個別指導